

## 国際金融ネットワークの基盤を支えるSWIFT

# 広 告

企画・制作  
日本経済新聞社広告局

### 国際金融フォーラム「Sibos 2008 ウィーン」

# より多くの顧客に利益を コスト削減、ネットワーク強化、顧客ニーズへの対応

グローバルな金融情報通信網の運営を行っているスイフト (SWIFT) は去る9月、国際金融フォーラム「Sibos 2008」をオーストリア・ウィーンにて主催した。米国有力投資銀行の破綻というニュースが世界を駆け巡る中、5日間にわたり、約8,000人の参加者が金融界のさまざまな課題について討論した。Sibosは同時に、スイフトの施策や方針を参加者に対して表明する場でもある。スイフトの主な施策について紹介する。



新ソリューションの「Alliance Lite」を語る  
スイフト CEO ラザロ・カンボス氏

## 顧客中心主義のさらなる推進へ

スイフトの最高経営責任者 (CEO) のラザロ・カンボス氏は、Sibos 初日の講演で、スイフトは顧客中心主義を引き続き推進していることを強調した。そこで触れられたのは、コスト、ネットワーク、顧客ニーズへの対応であった。

### コスト削減：利用料金改革と 総所有コスト低減への道

カンボス氏は、スイフトはメッセージング利用料金と総所有コストの

両面からコスト削減努力を続けていると語った。大口顧客向けの「定額制度」などの多様な料金体系を準備し、顧客に合わせた選択を可能とした。

スイフト加入時のコスト削減策のひとつが、非常に簡便なスイフトネットワークへの接続を可能とする「Alliance Lite」の発表だ (別項参照)。さらに、新たなメッセージ標準の導入・運用に伴うコストを低減するソフトウェア「Alliance Integrator」を発表した。

### さらに信頼度の高いネットワーク基盤

世界 208 カ国における約 8,500 の顧客を支えるネットワークには、業界最高水準の堅牢 (けんろう) 性と万一の際の障害復旧性が不可欠である。99.99% というネットワークの有効性は、今後も維持されなければならない。スイフトでは現在、分散アーキテクチャーに基づいたネットワーク構築に取り組んでいる。また、香港にアジア初のコントロールセンターの建設を進めており、完成すれば1日24時間ネットワークを監視すると同時に、世界のどこからの問い合わせにも対応できるようにする。

### 個別の顧客ニーズへの対応

スイフトは、証券系顧客のニーズに応じて、取引照合分野でのソリューションを開発した。カンボス氏は、事業法人には統合基幹業務システム (ERP) に容易に統合できるものが、中央証券預託機関には証券保有明細作成を支援するソリューションが必要になるだろうと語った。こういった個別ニーズに取り組むのが新しいスイフトだとカンボス氏は強調した。「汎用的なものではなく、個別ニーズに合った特定のソリューションを提供していきます。まず特定の誰かのために開発したものを、次に汎用化していくのです。」

広 告

国際金融ネットワークの基盤を支えるSWIFT

# 「簡単、安全、安価」に SWIFT接続を実現する革新的ソリューション

顧客中心主義を貫く「Alliance Lite」

スイフトが強調する顧客中心主義の代表格として、Sibos期間中にひととき注目を集めた発表があった。それがスイフト接続を劇的に簡便にする画期的なソリューション「Alliance Lite」の発表だ。スイフトはこれまで顧客のコスト負担を低減するために総所有コスト（TCO）の削減に取り組んできた。今回、スイフトのコスト戦略の一環として登場した同ソリューションについて紹介する。

## 安全性を損なわず、簡単に、 コスト効率良くスイフトに接続

これまで大規模金融機関の取引先である事業法人や小規模金融機関などにおいて、より簡便で低コストの接続方式が求められていた。「Alliance Lite」はスイフトがそういった市場の声を反映した答えの一つだ。同ソリューションはインターネットへ接続できる環境があれば、USB デバイス（セキュリティートークン）をパソコンに差し込むだけで一般的なインターネットブラウザを通じて業界

最高水準の安全性を誇る SWIFTNet サービスに接続し、利用することができる。「Alliance Lite」のパイロット試験に参加したイースト・カリビアン・セントラル・バンクの担当者は「ソフトの導入、移行、アップグレードなどメンテナンスが必要なく、TCOの削減が実現できる」と強調している。

## 事業法人や小規模金融機関 などに最適化

「Alliance Lite」は1日に200以下のメッセージを扱う事業法人や小

規模金融機関向けに設計されたソリューションだ。料金体系も顧客のニーズに応じて「定額制」および「従量制」の2つの料金体系を自由に選べる。今回発表されたバージョンでは、多銀行入金・キャッシュレポート・外国為替取引などを扱う金融機関や事業法人を対象にしているが、将来的には異なる事業エリアの顧客ニーズに対応する各種バージョンの提供を予定している。

## 顧客のニーズに応える 数多くのベネフィット

簡単、安全、安価が特長の「Alliance Lite」を導入するメリットはほかにも多い。利便性を高める機能の一つとしてIBANコードやBICコードなどのメッセージタイプを意識するこ

となくメッセージの送受信を行うことができる。また、バックオフィスアプリケーションとの連携を実現したソフトウェアである「Auto Client」をサポートし、複数のFINメッセージ（RJEフォーマット）の入出力を相互に可能にする。その結果、CUG（特定のユーザーグループ）環境やサービスプロバイダーの仕様に合わせたFile Act ファイルを交換することができる。そのほかにも顧客のニーズにきめ細かく対応する機能を数多く備え、新たなプラットフォームとして市場に歓迎される可能性を秘めている。スイフトCEOのラザロ・カンボスは「スイフト接続を促進する重要なマイルストーン」と位置づけ、推進していく意気込みだ。

# 標準化がもたらす ビジネスメリットとコストメリット

スイフトは、金融業界における取引メッセージの標準化を大きな使命のひとつとしている。情報通信技術（ICT）時代における標準化には、各金融機関が持つ情報システムの連携を可能とし、取引の効率性と安全性を向上させることが期待される。スイフトが担う金融取引向け通信メッセージの標準化の「今」を紹介する。

## 国際取引の拡大が要求する 標準化への波

金融機関間の取引が国内から域内、世界にと広がり、取引の総数が天文学的な数字になっていく一方で、取引の所要時間は秒単位からミリ秒単位へ、さらにマイクロ秒単位へと高速化し、金融機関には処理能力と処理速度の両方の拡張が求められている。スイフトのネットワーク上で伝送されるメッセージ件数は、日次ベースで1,500万通を超えている。メッセージの作成と処理の効率化、自動化は、あらゆる金融機関の優先事項であり、その実現には標準化が不可欠となる。

## 新たな標準化—ISO20022

業務効率の向上やグローバルに展開可能な製品・サービスの提供のため、さまざまな業界で国際標準化の重要性が認められている。金融業務についてもこれは同様で、互換性の確保、業務合理化、サービス向上のために国際標準化機構（ISO）において通信技術などの標準化が進められている。スイフトがそのサービスを提供している金融取引メッセージも対象となっており、国際規格であるISO20022が2004年に承認され、スイフトをはじめとする世界各国の標準化団体に採用されている。

ISO20022は、業務プロセスモデ

ルに基づく標準化開発の手法である。この手法に基づいてメッセージを開発し、XML（拡張可能なマーク付言語）構文で物理的メッセージを生成する。XML構文は、現時点でISO20022に採用されている構文であり、ISO20022そのものは「シNTAXフリー」、つまり構文にとられない標準化手法である。また、ISO20022は「オープンスタンダード」であり、誰でも内容を閲覧・使用することができる。現在、約200の金融取引用メッセージが既に開発済みである。これらのISO20022準拠メッセージは、通称「MXメッセージ」と呼ばれている。

## スイフトとISO20022

スイフトのネットワークでは2005年よりMXメッセージが実用化され、今年はSEPA（欧州単一ユーロ支払い地域）による利用が開始

された。日本でも証券保管振替機構がその採用を表明している。現在は特定の利用者グループ（クローズドユーザーグループ）による利用が中心となっているが、今後はより洗練された開発モデルとXML構文を利用することの長期的優位性にもとづき、既存のMTメッセージからMXメッセージへの移行が順次行われる予定である。ユーザーのシステム再構築などにかかる時間とコストを考慮して、移行は業務範囲ごとに、さらにはクローズド・ユーザーグループごとに行うことが提案されている。MXの採用・実用化の進展に伴い、さらにメッセージ処理をアプリケーションで自動化することが可能になる。金融業界で幅広く使用される標準となればITベンダーにとってもビジネスチャンスとなり、高機能なアプリケーションが低価格で提供されることも期待できる。

# 運用機関に広がるスイフトの採用

これまでも運用会社にとって重要な経営課題であったファンドの販売量の拡大や組織としてのコスト削減は、昨今の金融危機の中、さらに重要度が増しているものと思われる。ファンドの拡販とコスト削減の実現にはさまざまな要件が必要であるが、スイフトを手段として活用することで実現できる点を紹介する。運用会社のスイフト利用は世界的に拡大基調にあるが今後もニーズは高まると思われる。

## FIN サービスの活用メリット

スイフトのFIN サービスは9つのビジネスカテゴリーを広くカバーするが、証券関連メッセージ群で構成されるのがカテゴリー5である。カテゴリー5のメッセージは発注から決済、残高情報、コーポレートアクションなどを含む。運用会社はアセットクラスにかかわらず内外の証券会社からの売買報告「MT515（平均単価ベース、非平均単価ベースをいずれでも）」を受領し、自社の取

引データと照合後、運用指図「MT54X」を受託銀行へ送信する一連のプロセスの自動化が可能である。

海外投資家の国内証券投資を受託している運用会社がグローバルカストディアンとの通信を行う場合、スイフトがもっとも一般的な手段として用いられる。現在、協議を進めている証券保管振替機構とスイフトの接続が実現すれば、運用会社は国内証券について決済照合システムとの通信のスイフト化が可能となり、その結果、外国証券とともに内外の取

引相手との通信をスイフトで一元化し人手を介さないSTP（ストレート・スルー・プロセッシング）処理が可能となる。

また、外国証券投資の運用を海外のアドバイザーに委託し、ファンドを多様化させることで市場ニーズに応える戦略は活発であるが、ここでも標準フォーマットでの出来連絡通知の受領が可能である。戦略変更により委託アドバイザーが増えたり、変更したりする上でもスイフトは柔軟性を提供する。

さらに、為替・デリバティブ分野でFIN サービスのカテゴリー3メッセージ群を用いて売買確認および運用指図を自動化したり、「Accord」というスイフトのマッチングサービスを採用する動きもある。

## ファンド向けソリューション

スイフトはFIN でアンダーライティング・アセット・レベルのSTPを提供するとともに、ファンドそのものの売買、関連するレポートの自動化を実現するソリューションを稼働させている。特に外国籍ファンドの場合、事務はマニュアルに依存しており、ファンドごとに異なるフォーマットの問題やファンドの注文確認、タイムリーな基準価額の取得でファンド関係者は日々悩まされている。スイフトは欧州投信協会やヘッジファンド・パイロットグループなど多くの業界団体と連携してファンドソリューションによる標準化とSTPを促進しており、このような問題を解決する。

例えば、  
次世代キャッシュ・マネジメント対応。



事業法人様、金融機関様、  
両サイドのシステムにおけるEnd-to-Endのサポート。

多言語対応、  
24時間365日サポートの実績、  
アジアでNo.1を誇るSWIFT認定エンジニア数。  
(2008年12月12日現在、SWIFT公式サイト swift.com公開情報より)

国内外をシームレスに結ぶ  
各種のご要件にワンストップでお応えします。

日本で、世界で、金融ソリューションの核でありたい。

NTTデータ ジェトロニクス  
主要金融ソリューション

- CMS (キャッシュ・マネジメント)
- Trade Finance (貿易金融)
- Treasury & Securities (資金証券)
- AML (アンチ・マネーロンダリング)
- Settlement System (決済システム)
  - BOJ-NET Connectivity (日銀ネット接続)
  - CLS Management (多通貨同時決済対応)
- STP (取引処理の自動化)
- SWIFT
  - SWIFTNet 接続
  - Alliance 製品の導入
  - Market Infrastructure 対応
  - SWIFT Solutions 対応
  - SWIFT for Corporate 対応
  - Standards 関連コンサルティング



NTTデータ ジェトロニクス株式会社

Sense it. Make wonders.™  
感じる心。創造する力。